



Volunteer Seminar Journal Vol.13

2018 Spring
ボランティアセミナージャーナル

イベントカレンダー

月	火	水	木	金	土	日
4/2	3	4	5	6	7	8 荒浜ツアー
9 ※13:00-18:30	10	11	12	13	14 ※11:00-15:30	15 石巻ツアー 富岡ツアー
16	17	18	19	20	21 ← 陸前高田ツアー →	22
23	24	25	26	27	28 ← 石巻ツアー →	29
30	5/1	2	3 ← 薄磯ツアー →	4	5	6

ボランティアフェア

東北大学内外のボランティア団体の合同説明会! 「まずは話を聞いてみたい」「いろんな団体と比べ考えたい」というあなたにはもってこい! 予約不要、途中入退場自由です。

時間: 16:00-18:30 ※9日は13:00-18:30、14日は11:00-15:30

場所: 附属図書館多目的室

参加団体: HARU、SCRUM、ReRoots、たなぼた、復興応援団、As One、amo、こども☆ひかりプロジェクト、Bridge、ワカツク、ballons+、宮城県青年赤十字奉仕団、STORIA、チャンス・フォー・チルドレン、TEDIC、キッズドア東北、アスイク

ボランティア支援学生スタッフ「SCRUM」説明会+晚餐会

ボランティアツアーやスタディツアーの企画、ボランティアを行なおうとする学生・団体の支援を行なう「SCRUM(スクラム)」の説明会です。学生スタッフが、活動の紹介をし、ボランティアの魅力をお伝えします! 13日・25日は16:30、19日は18:00開始。厚生会館前集合です。

ボランティアツアー、スタディツアー

東日本大震災の被災地を訪れ、ボランティアや視察を行ないます。所属・学年問わず、どなたでも参加できるツアーです! 詳細は34-35Pへ

P2	P4	P6	P8
●課外・ボランティア活動支援センターの概要	●東日本大震災発生当時の状況	●東北大学SCRUMとは	●現在の被災地の状況と学生団体の取り組み
P14	P20	P24	P35
●先輩の声	●座談会～ボランティアとキャリア形成～	●ボランティア団体紹介	●ボランティアフェア・新歓イベント・ツアーのご案内





社会を学ぶきっかけとしてのボランティア

東北大学では、2011年の東日本大震災以降、様々な学生ボランティア活動が生まれました。現在は、**課外・ボランティア活動支援センター**を中心にボランティア活動の支援をしています。ボランティア活動は、黙々と肉体労働を行うイメージがあるかもしれませんが、しかし、キャンパスを飛び出して、まちを知り、人と出会うボランティア活動は、様々な現代社会の課題を学ぶきっかけにもなります。皆さんも、ぜひ在学中にボランティア活動にチャレンジしてみましょう！

ボランティア活動に参加したい人へ

課外・ボランティア活動支援センターでは、皆さんがボランティア活動に参加したり被災地の現状を学ぶことができるよう、様々な支援を行っています。自分の関心に合わせて、ぜひ参加してみてください。



① ボランティア・フェアに行こう！

学生ボランティア団体やNPO等がブース出展する合同説明会を年に3シーズン開催しています。入退場自由で、直接先輩や社会人から話が聞けます。(36P)

② ボランティアツアー・スタディツアー等に参加しよう！

センター主催・共催で被災地等で活動するツアーを定期的に行っています。一人でボランティアに参加するのが不安な人は、まずツアーに参加してみましょう。(34・35P)

③ ボランティア情報メール配信サービスに登録しよう！

定期的にボランティア関連情報をメールで配信します。右のQRコードから申し込んでください。



④ 学生ボランティア団体に入ろう！

大学公認の学生ボランティア団体が複数あり、定期的にボランティア団体間の交流も行っています。(24P～)

⑤ 学外のボランティア活動に参加しよう！

みやぎNPOプラザや仙台市ボランティアセンター等、ボランティア活動を紹介する団体のHPを見てみましょう。センターで個別相談にも応じます。

⑥ ボランティアの企画運営やコーディネートをしてみよう！

センターの学生スタッフ組織SCRUMに入ると、ボランティアツアーや留学生との被災地での交流などの様々な企画運営ができます。(6P～)

東日本大震災やボランティア関係の授業

課外・ボランティア活動支援センターでは、被災地等でのボランティア活動やフィールドワークを通して地域社会に貢献しながら学ぶサービス・ラーニング科目を開講しています。現場に飛び出して一緒に学びましょう！

科目群	授業題目	担当教員	開講時期
基幹科目	社会の構造 「東日本大震災からみる現代日本社会」	江口怜、 西出優子、 菊池遼	【2Q】火1・木1 【2S】月4
基礎ゼミ	被災者の生活再建・ コミュニティ形成の課題とボランティア活動	小田中直樹、 江口怜、 菊池遼	【1S】月3・4
	共生社会に向けたボランティア活動 —人権・多様性・エンパワメント	江口怜	【1S】木5
	NPOと行政の協働 —仙台市の地域課題を解決するアイデアを考えよう	西出優子	【1Q】月3・4
国際 教育科目	課題解決型(PBL)演習A 「被災者の生活再建・コミュニティ形成の 課題とボランティア活動」	江口怜、 菊池遼	【2S】月5
	課題解決型(PBL)演習A 「福島における人権保障と共生の課題 —原発事故以降を生きる人々に寄り添う」	江口怜	【2S】金3

※サービス・ラーニング科目の受講は「東北大学グローバルリーダー育成プログラム(TGL)」のポイントとしても認定されます。詳しくはTGLのサイト(<http://tgl.tohoku.ac.jp/>)をご覧ください。

学生ボランティア支援に関するホームページやSNS

課外・ボランティア活動支援センター

http://www.ihe.tohoku.ac.jp/?page_id=7395

東北大学の学生ボランティア支援

<http://www.tohoku.ac.jp/japanese/studentinfo/volunteer/01/volunteer0101/>

東北大学ボランティア支援学生スタッフSCRUM

<https://scrum-tohoku-univ.jimdo.com/>



@TOHOKU_VOL



@voltohokuuniv



東日本大震災発生当時の状況

地震被害

東日本大震災では、三陸沖を震源とするM9.0の地震が発生し、岩手県～千葉県にかけて、震度6以上の揺れが観測されました。東北大学のある仙台市中心部でも、家屋の損壊や電気やガス水道の停止等から、避難所が開設されました。



避難所となった東北大学川内体育館の様子▶

津波被害



地震に伴って、太平洋沿岸各地に大津波が襲来。東日本大震災の死者・行方不明者22,152人のうち、多くは津波による犠牲でした(平成29年9月1日時点、消防庁発表)。また家屋等の被害も甚大なものとなりました。

◀仙台市若林区荒浜小学校からみた被災状況(提供:仙台市)

福島第一原発事故

地震・津波後は、東京電力福島第一原発の事故により、多くの人が避難や屋内退避を迫られました。福島県では、県内外に最大164,865人(平成24年5月)が避難しました。東北大学のキャンパスでも、放射線モニタリングが行われてきました。



福島市の避難所で放射線スクリーニングを受ける列(提供:日本赤十字)▶

7年経った被災地



被災地では、ハード面の復興が進む一方で、新たなコミュニティの形成や人口減少・少子高齢化への対応などの課題が噴出してきました。いまだに仮設住宅等で生活している人びともおり、復興課題の多様化・複雑化が進んでいる現状です。そのため、今なお被災地ではボランティアが求められています。

◀石巻市に残る仮設住宅

東北大学では、東日本大震災の影響により授業開始が延期され、その間多くの学生が被災地ボランティアに赴きました。また東日本大震災学生ボランティア支援室の設立後は、学生主体で、被災地を訪れるツアー(ボランティアツアー)の企画・運営やボランティア紹介イベント(ボランティアフェア)が行われてきました。以下の表では震災後の大学内と被災地の動きをまとめました。

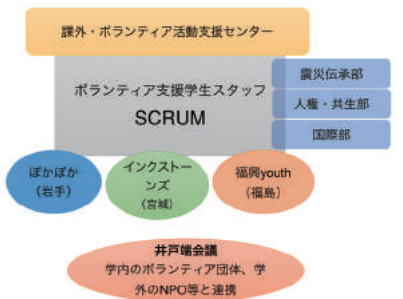
	大学の動き(ボランティア関連)	被災地の動き
2011年	<ul style="list-style-type: none"> ●避難所の開設(3月11日～16日) ●東北大学地域復興プロジェクト“HARU”による、山元町支援スタート(4月8日～) ●授業が順次スタート(5月～) ●東日本大震災学生ボランティア支援室の設立(6月)。学生スタッフの活動スタート(12月～) 	<ul style="list-style-type: none"> ●午後2時46分、東日本大震災の発生。太平洋沿岸各地に津波(3月11日) ●福島第一原発で水素爆発(3月12日～15日) ●原発事故の影響で「警戒区域」「計画的避難区域」「緊急時避難準備区域」が指定(4月22日) ●石巻市の避難所が全て閉鎖(10月11日)
2012年	<ul style="list-style-type: none"> ●東日本大震災学生ボランティア支援室でボランティアツアーのスタート(4月)。 ●ボランティアフェアのスタート(4月) 	<ul style="list-style-type: none"> ●復興庁の発足(2月11日) ●福島県内の避難指示区域を「帰還困難区域」「居住制限区域」「避難指示解除準備区域」に再編(4月1日)
2013年	<ul style="list-style-type: none"> ●関連授業(「震災復興とボランティア」)のスタート(4月～) 	<ul style="list-style-type: none"> ●最後の避難所が閉鎖(埼玉県加須市・12月)
2014年	<ul style="list-style-type: none"> ●課外・ボランティア活動支援センターの設立(4月～) 	<ul style="list-style-type: none"> ●福島第一原発20キロ圏内初の避難指示解除(田村市都路地区東部・4月～) ●被災地初の集団移転宅地引き渡し(岩沼市玉浦西・4月)
2015年	<ul style="list-style-type: none"> ●東日本大震災学生ボランティア支援室学生スタッフ組織の愛称が「SCRUM」に決定(4月～) 	<ul style="list-style-type: none"> ●女川町でまちびらき(3月) ●石巻市の新市街地でまちびらき(11月)
2016年	<ul style="list-style-type: none"> ●熊本地震ボランティア派遣のスタート(5月～) 	<ul style="list-style-type: none"> ●熊本地震の発生(4月14日) ●災害公営住宅の建設が本格化
2017年	<ul style="list-style-type: none"> ●ボランティア団体の多くが学友会にも登録(9月) ●東日本大震災学生ボランティア支援室の廃止、新たな学生ボランティア支援に関する内規の制定(12月) 	<ul style="list-style-type: none"> ●仙台市でプレハブ仮設住宅を全て解体(3月) ●福島県4自治体で避難指示解除(4月～)

東北大学 SCRUMとは?

約60名のメンバーが所属する、課外・ボランティア活動支援センターの学生スタッフ組織です。

実際に、被災三県(岩手・宮城・福島)や熊本県で活動するほか、ボランティアコーディネートも行なっています。

また2017年度より、新たに国際部・人権共生部・震災伝承部が発足し震災の枠を超えた活動もしています。



▶ ボランティアコーディネート

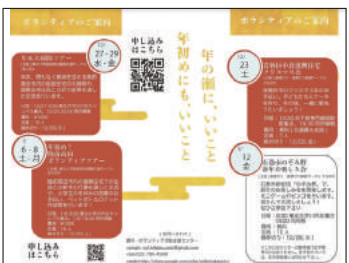
ボランティアコーディネートとは、ボランティアをしたい個人とボランティア団体をつなぎ、支援する活動です。

イベント開催



ボランティアフェア(ブース形式の説明会)などを開催し"きっかけ"を提供しています。

情報発信



SNSや三角柱、広報誌などで活動や被災地の現状を発信しています。

▶ 被災地での活動

被災三県にて、スタディツアーや、仮設住宅・災害公営住宅を中心にコミュニティ形成を支援する「寄り添い型」のボランティア活動を行っています。こういった活動は対話が生まれやすく、その中で得た住民の方の本音を次の活動へ活かしています。

ほかほか



主な活動地域
岩手県陸前高田市

主な活動内容
寄り添い活動、伝統行事の手伝い
…詳しくは27Pへ

インクストーンズ



主な活動地域
宮城県石巻市

主な活動内容
寄り添い活動、限界集落への支援
伝統行事の手伝い …詳しくは25Pへ

福興youth



主な活動地域
福島県いわき市

主な活動内容
寄り添い活動、福島の実状を知るスタディツアー
…詳しくは27Pへ

熊本での活動

東北大学SCRUMでは年3回ほど熊本地震で被害を受けた熊本県益城町を中心に2016年度より9回の派遣を実施しています。現地大学(熊本大・熊助組/熊本県立大・ボランティアステーション)と連携して、震災発生直後はハード系の活動を、現在はソフト系の活動をしています。



被災地でのスタディツアー・ボランティアツアーはこちらからお申し込みいただけます▶▶▶



▶ 震災伝承部

震災から7年経つ中で、活動だけでなく被災当時からこれまでの復興の歩みを忘れず、忘れさせずに、次の災害に備えることを目的に活動しています。



震災遺構・荒浜小学校の見学

- 震災関連ビデオの視聴**
大川小学校での悲劇
法医学者が見た東日本大震災など
- 学習会**
東日本大震災や福島原発事故に関する学習会を開く
- フィールドワーク**
震災遺構の見学や語り部の方のお話を聞く

▶ 人権共生部(ひととも)

震災関係以外の様々な人権課題に取り組むボランティア活動を見学したり、学習する活動をしています。

- 学習会**
貧困、ジェンダー、在日外国人や障害者の人権など様々なテーマを学ぶ
- フィールドワーク**
関心を持った活動に取り組みNPOや市民団体を訪問する
- ボランティア体験プログラム**
学生を募集して、ボランティア体験の機会を提供する



子どもの貧困問題を学ぶ学習会

▶ 国際部

留学生を対象に、被災当時の状況を知ってもらったりツアーやボランティア活動を体験してもらったりツアーを企画しています。



石巻市の復興公営住宅でクリスマス会



石巻復興情報交流館でのスタディー

岩手県

東北大学では2012年より、陸前高田市で学生ボランティア活動を展開しています。主に「陸前高田応援サークルぼかぼか」というサークルが取り組んでいます。ここでは、陸前高田市の状況と、そこの「ぼかぼか」の活動を取り上げます。

陸前高田市の被災状況

陸前高田市の市役所や商業施設が集積していた平野が13mから17m以上の津波に襲われ、1,757名の方が亡くなり、4,000戸以上の家屋が被災しました(平成26年6月30日時点、陸前高田市発表)。

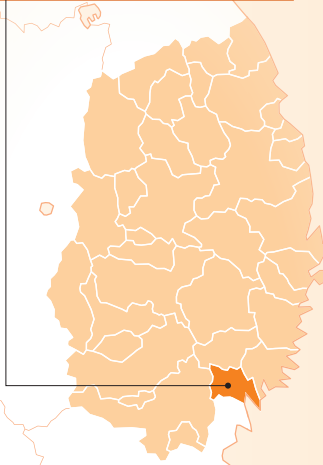
避難場所に指定されていた市民体育館や市民会館が全壊。避難していた市民の多くが亡くなりました。

また広田湾沿いには約7万本の松林が2km続く、日本百景にも指定されていた景勝地「高田松原」がありましたが、ほとんどが津波でなぎ倒されました。その中で、一本だけ倒れずに残ったのが「奇跡の一本松」です。



死者数(震災関連死含む)	5,136名
行方不明者数	1,121名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	26,078戸

岩手県総務部総合防災室 平成29年11月30日現在



復興の現状

陸前高田市には2,168戸の応急仮設住宅、155世帯のみなし仮設住宅があり、現在では人の少なくなった仮設住宅を市内の数か所に集約していますが、2018年3月現在もそこで生活を強いられている方が多くいます。市内の災害公営住宅は11団地すべてで895戸が建設完了、そのうちの702戸で入居されています(平成29年10月時点、陸前高田市発表)。陸前高田市では最大12m、平均で10m超という膨大なかさ上げが行われています。約300haに上る土地区画整理事業は被災地最大規模で、7年経った今も住宅再建にはまだまだ時間がかかります。かさ上げ地や高台に住居を希望される住民にはまだ宅地を引き渡されていない方もいて今年度も仮設住宅での生活を強いられています。



被災した方々の声



震災後の仮設のときに大学生の方に来てもらってつらいとき救われたんだよ。これからも来てもらえたら嬉しいな。
(70代女性、2016年公営住宅にて)



夫には先立たれ、引越越ししてから体重が激減してしまって、元気が出ない。早く夫に迎えに来てほしい。
(80代女性、2016年公営住宅にて)



ここ(復興公営住宅)ではドアを閉めるとひとりきりになってしまう。何とも言えない孤独感がある。男らしくないことを言うけど泣きたくなる。一人でのいるとたまらない思いがする。
(70代男性、2014年公営住宅にて)

東北大学生の取り組み

東北大学「ぼかぼか」は2018年3月までに計55回の「陸前高田ボランティアツアー」を実施し、以下のような活動を行ってまいりました。

仮設住宅での寄り添い活動

陸前高田市では公営住宅や自立再建した家に移り住む方が増えている一方、仮設住宅で暮らさなければならぬ方もいらっしゃいます。そのような方々に寄り添い、住民同士の集まれる場を作るため仮設住宅での足湯・手芸カフェという足湯や手芸をしながら一緒にお話をする活動を行っています。



災害公営住宅での支援活動

集合住宅型の災害公営住宅では、今まで生活してきた戸建ての住宅や仮設住宅に比べて、階の異なる人とは接する機会がなく、気軽に近所の人と話せないという声があります。そこで私たちはそのような方々が集まってお話ができる場を作ろうと災害公営住宅でも足湯・手芸カフェと一緒に料理を作って食べる活動を行っています。

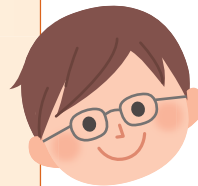


地域活動の支援

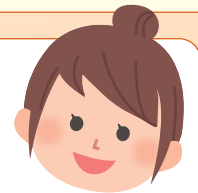
陸前高田市の伝統行事である「動く七夕」「虎舞」は多くの住民が集まりコミュニティの維持・形成に大きい役割を持っています。しかし震災後、人口減少・少子高齢化・資金・場所などの問題により開催が危ぶまれています。そこで、私たちは高田町和野地区の活動に参加し伝統行事存続のためのお手伝いをしています。他にもNPO法人パクトの実施している子どもたちに遊ぶ場所を提供する「みちくさルーム」に参加しています。



ツアー参加者の声



●自分は被災地について全然知らなかったが、今回のツアーを通して震災当時の状況、復興の過程、現状を知ることができた。また被災者の方とお話を通して、これから自分ができることについて考えるきっかけになった。



●初めて、ボランティアに参加しましたが、自分が思ってたほどハードルは高くなく楽しいものでした。また、震災遺構を見て、津波・地震の恐ろしさを初めて実感しました。悲しい話だけでなく、心が温まる話が数多く聞けて良かったです。

宮城県

死者数(震災関連死含む)	10,564名
行方不明者数	1,225名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	238,133戸

宮城県危機対策課 平成30年3月7日現在

宮城県では、震災から7年、大学生あるいは社会人により様々なボランティア活動が行われてきました。役割を終えた活動もありますが、今だからこそ必要な活動もあり、東北大学生による多様な取り組みが、現在も行われています。

被災状況

豊かな漁場と農地を有する宮城県。震災後、北部では最大20mを越える津波が押し寄せ、南三陸町、女川町などの市街地は壊滅的な被害に見舞われました。県南の平野部では、仙台東部道路・常磐自動車道・国道6号線沿いまで津波が押し寄せ、広大な農地・港湾施設等が被害を受けました。

復興の現状

宮城県では、現在でも3,255名が応急仮設住宅で(入居率17.0%)、3,878名が民間アパート等を借り上げた「みなし仮設住宅」で生活しています(宮城県発表、平成30年2月28日現在)。

石巻市では震災から約7年が経過した今、ようやく自宅再建や集団移転地の整備が進んできました。しかし仮設住宅の集約に伴って、元の仮設住宅でできていたコミュニティが崩壊し、移転を余儀なくされた住民が、移転先に住む住民の中になかなか溶け込めないといった問題が生じています。また災害公営住宅などへ入居した住民からも、生活の利便性の向上などに喜びの声が聞かれる一方で、移転先での新しいコミュニティ作りへ不安の声も上がっています。

牡鹿郡女川町は、震災により多大な人的被害を受け、また建物の被害も強く受けました。一方で全国から来た復興作業員が毎日作業を続けていて、少しずつ復興に向かっていきます。

被災した方々の声



(集会所でお茶会中)別の仮設から来たのよ。私のところはもう住んでる人がいなくてね…。

(60代女性、2018年、石巻市仮設大森第四団地にて)



二子団地(集団移転地)の家の日照問題で隣の人と話して決めなきゃいけないんだよね。役所の手続きも面倒だし、そういうことで神経を使ってるんだよね。

(70代男性、2018年、石巻市仮設大森第四団地にて)



ずっと一人で生きてきたけど、ここに越してきて、こういう活動に参加しているうちに知り合いも増えて、誘ってもらえるようになって本当にありがたいです。

(仙台市あすと長町市営住宅にて)



HARU, As One, たなぼた, SCRUMが合同で行った山元町のスポーツ祭

学生団体の取り組み

●インクストーンズ(25P)

石巻市を中心に活動しており、仮設住宅や災害公営住宅でのお茶会、手芸などのイベントの開催を通して、「弱者を生まないコミュニティ形成」を実現しようとしています。お年寄りや子どもたち、障がいを持った方々が、被災地で新たに形成されつつある地域内のつながりの中で、孤立したり弱い立場になったりしないことが私たちの活動目標です。また、地域の伝統行事や季節ごとのイベント協力、旧雄勝町にある波板地区という限界集落の記憶を残す取り組みのお手伝いもしています。

●たなぼた(26P)

ボランティア初心者が立ち上げた新しい団体で、より多くの学生が気軽に参加できるボランティアの企画を目指しています。住民が心を通わせる場を作ると同時に、私達にとっても楽しくボランティアを続ける居場所を作り続けたいと思っています。仙台市・石巻市で主に活動しています。

●As One(24P)

女川にたびたび訪問していますが、女川だけでなく石巻でも活動したり、またその他にも名取市閑上地区などでスタディーツアーを行ったりしています。震災から7年目であるいま、どのような東北支援ができるのか、メンバーで模索中です。

●HARU(26P)

仮設住宅だけでなく公営住宅も支援の対象に加え、住民同士の交流を図るお茶会や、地域住民の世代間交流を促進するためのスポーツ大会などを企画しています。今後も移り変わる被災地の現状に応じて柔軟な支援を行っていきます。

●ReRoots(28P)

2011年より仙台市若林区で農地の瓦礫撤去に着手。現在は野菜栽培、農家の方が作ったお野菜の直売所の運営、被災地の稲わらを使った「わらアート」展示などといった地域外から人を呼び込むイベントの企画、地域の話し合いの場への参加など、多方面から若林区の復興に向けた活動を行っています。

ツアー参加者の声

●自宅再建した方が、ほぼ毎日の堤防工事の騒音に悩まされているということをお聞きし、被災された方の住居が完成して終わりということではなく、その後もサポートしていくことの必要性を感じた。

●高度経済成長のようなことが東北で起こるとは思えないので、人口減少地域における復興とは何かということを考えなければならなかった。

福島県

死者数(震災関連死含む)	4,024名
行方不明者数	2名
家屋倒壊数(全壊・半壊)	96,027戸

福島県災害対策本部 平成30年2月13日現在

東北大学では、2013年より福島県のいわき市や富岡町を中心にスタディツアーやボランティア活動を行っています。ここでは、県内の津波・原発事故の被害と復興の現状、ボランティアサークル「福興youth」の活動を紹介します。

富岡町の現状

双葉郡の富岡町では、平成29年4月に原発事故による避難指示が大部分で解除されました。しかし避難指示の長期化により、町の人口や生活基盤、産業の流出が進み、今後町の再建や住民のケアにどう向き合っていくかが課題となっています。



いわきで「お前たちはお金をもらえていいな」と3度も言われて、さすがにキレてしまったね…「好きで来ているんじゃない!」。その後は地元を言わなくなりましたよ。
(富岡町出身60代女性)

いわき市の現状

いわき市沿岸部は津波による甚大な被害を受けました。美しい海と水産加工産業で有名な薄磯地区では、家屋や観光業、水産業に大きな打撃があり、118名の方が亡くなりました。

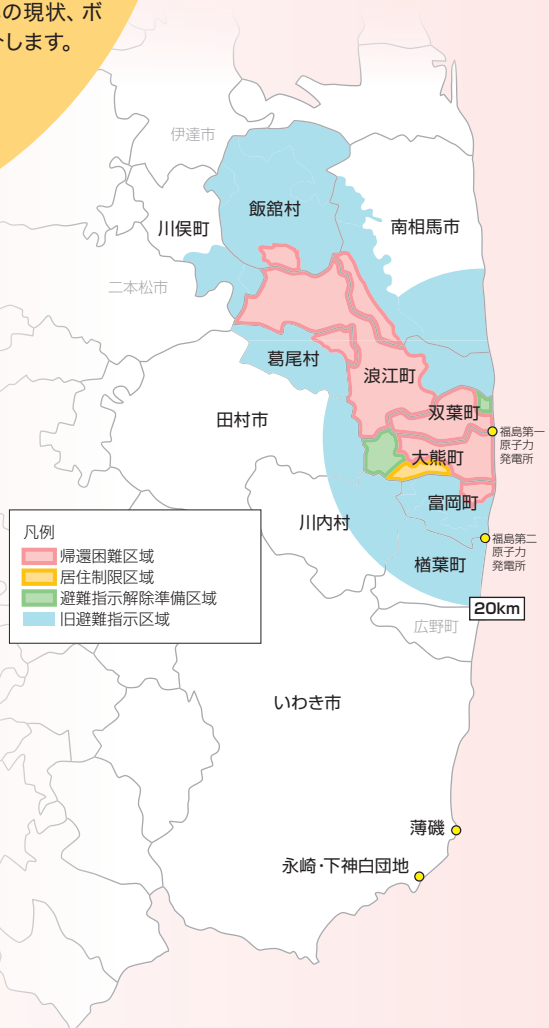
また、双葉郡から多くの避難者が移り住み、新たな生活環境でのコミュニティ形成も課題です。特に津波による被災者と原発事故による避難者との間で、東京電力からの賠償金の有無などによる背景の違いを乗り越えようと歩み寄る動きが始まっています。



みんな大変だった。あの人も何でもないように笑ってるけど、みんな同じように津波で多くのものを失った。
(いわき市内在住ご夫妻)

浜通りの概況

平成29年4月1日現在(経済産業省発表)



凡例
 ■ 帰還困難区域
 ■ 居住制限区域
 ■ 避難指示解除準備区域
 ■ 旧避難指示区域

20km

詳しくはこちらから
<http://fukko-youth.tumblr.com/>



東北大学福興youthの取り組み

ふくしまに寄りそう

1.いわき市 薄磯での活動

薄磯地区は、いわき市沿岸部の地域です。当時約8.5mの津波が押し寄せ、犠牲者数は市の死者数の1/3を占めるという甚大な被害を受けました。基幹産業は水産加工業であり、特にかまぼこ製造が盛んでした。また美しい海が有名で、震災以前、薄磯海岸には毎年約20万人の海水浴客が訪れていました。私たちは、伝統的なお祭りなど地域のイベントへの参加、学童保育訪問などを通し、まちの復興の様子を見守るとともに住民の方々と交流を深めています。昨年は、7年ぶりの海開きのお手伝いもしました。



2.いわき市 永崎団地・下神白団地での活動

永崎団地・下神白団地には、それぞれ津波で被災された方、原発事故による被害で避難された方という立場の異なる方々が入居されています。両団地は1本の道路を挟んで隣接していますが、かつては全く交流がありませんでした。東京電力からの賠償金の有無などによる団地間の違いをいかに乗り越え、共生していくかが課題となっています。私たちは2016年からコミュニティ形成支援・傾聴等を目的として、2団地合同の足湯・カフェ活動やクリスマスパーティを行っています。



ツアー参加者の声

- 明るく見える方でも、「本当は浪江町に帰りたい」という声を聞き、やはり無理して明るくされている部分があるのではないかと感じた。
- 住民の方が気さくにお話してくださって、その温かさに触れられた。



ふくしまを見つめる

福島の今を知るスタディツアー

東北大生に福島の実情を理解してもらうため、スタディツアーを行います。昨年は旧避難指示区域の視察や東京電力HD福島復興本社、JAへの訪問を通し、多面的に福島について考える機会となりました。ぜひ、私たちと共に福島の「今の声」に耳を傾けてみてください。



ツアー参加者の声

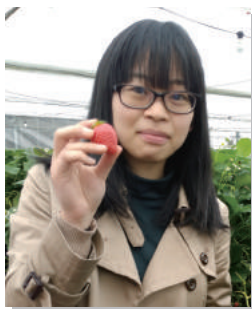
- 原発事故の責任や風評払拭について、福島が、県庁が、農協が、東電が、と人まかせにしたいと思うようになった。
- 被災した一人ひとりの思いも汲みとらなくてはならないが、社会として発展していくために行動することで、被災者の方との思いに反することもあると感じさせられた。



先輩の声

さいとう みく
齋藤 美久

教育学部2年
東北大学福興youth



ボランティアを始めたきっかけを教えてください

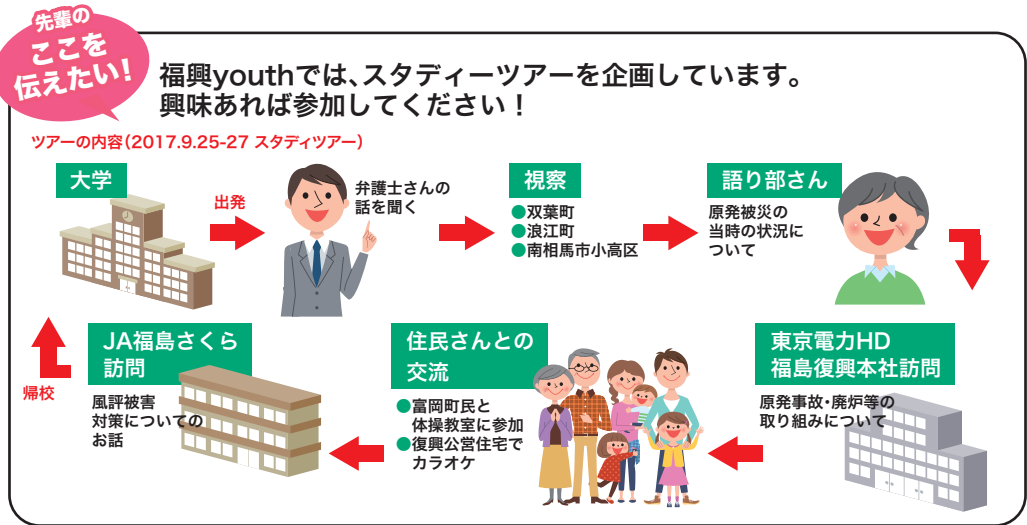
高校までボランティア経験のなかった私は、入学当初ボランティアを始めたいと思っていました。また、福興youthは、私の地元である福島県で活動している団体であり、メンバーの雰囲気も良く、入ろうと決めました。

活動の魅力はどこですか？

何よりも、私たちが行って活動することで、現地の方に喜んで頂けることが嬉しいです。現地の方の笑顔を見ると、自分も元気をもらいます。また、震災から7年がたち、風化が進んでしまっている中、今ある課題や福島県と切っても切り離せない原発事故の問題について、ボランティア活動、スタディツアーなどを通して、多様な視点から学ぶことは、福興youthの魅力の一つだと思います。そして、現地の方々、メンバー、一般の支援団体の方など、たくさんのお会いがあるのもボランティア活動の魅力です。さらに、今まで知らなかった福島県の魅力にも気づくことができますよ！

新生に一言お願いします！

「ボランティアをしたい！」という熱意があれば、どなたでも大歓迎です！ 堅苦しく構えずに、一緒に活動してみませんか？



こばやし だい いち ろう
小林 大一郎

工学研究科(都市建築学専攻)修士課程1年
東北大学陸前高田応援サークルぼかぼか

ボランティアを始めたきっかけを教えてください

大学に入って初めて東北に来た自分にとって被災地はテレビの中の世界でした。そんな被災地を実際に見たいと思い、友人の行っていた陸前高田ボランティアツアーに参加しました。その後、ぼかぼかというサークル立ち上げに携わりました。

活動の魅力はどこですか？

ボランティアは縁のないと思っていた私が被災地に通い続けることで現地の魅力や復興について様々なことを学びました。被災地の復興計画に興味をもって学部2年生のときに工学部の建築学科へと転学科し、人生を左右する決断をしました。この活動を始めたことが、たくさんの人と出会ってコミュニケーションをとるきっかけとなりました。これまで狭い交友関係で育ってきた私にとってさまざまな刺激をもらい、自分の世界が広がりました。

新生に一言お願いします！

被災地の復興はまだまだ続いています。あなたが直面するかもしれない災害のあった現場に一度足を運んでみてください。今からでも全く遅くありません。





つじ い しょう た
辻 翔太

教育学部(教育心理学コース)4年
NPO法人アフタースクールぱるけ
(お問い合わせ:辻井翔太shotaskjn@gmail.com)

ボランティアを始めたきっかけを教えてください

障がいのある子どものきょうだいを対象とした支援活動をする中で、きょうだい支援を行うには障がいについても知る必要があるのではと思い、障がい児を対象とした放課後デイサービスのぱるけでボランティアをすることになりました。

活動の魅力はどんなところですか？

何よりも子どもが可愛いので楽しいです！発達障害や知的障害、身体障害など色々な子どもがいますが、とにかく可愛いと思いながら毎回活動しています。その一方で、癩癩を起こしているがその理由がわからないことも多いため、対応の難しさを感じることもあります。ただ、そのときにこの子はどうしたいのか、どうしてほしいのかをこちらが寄り添って考えることで癩癩の理由がわかることがあります。そうすると子どもは笑顔に戻ります。障がいのある子どもは周りの環境や対応次第で生きやすさが変わる。これを体験として学べたことはよかったですと思います。最後に、色んな魅力がありますが「子どもの視点で考えることができるようになる」ことが大きな魅力なのかなと思います。

新入生に一言お願いします！

人との出会いが自分を変えるな～と色んなボランティアに参加していて特に感じるので色んなボランティアに参加して色んな人に出会うといいと思います！

先輩の
ここを
伝えたい！

きょうだい支援と障害児者支援

大学1年生 - 2年生前期

きょうだい支援サークルに入る。子どもとの接し方に悩みつつも少しずつきょうだいという立場を意識し始める。



2年生後期 - 3年生前期

きょうだい支援そのものに興味を持ち始める。そして障害について知ることがきょうだいへの理解につながるのではないかと考える。



3年生後期 - 現在

ぱるけを含め障害児者の支援ボランティアを始める。さまざまな障害特性を知ることを通してきょうだいの境遇は多様で複雑であることがわかる。

※きょうだい… 障害のある子どもの兄弟姉妹



ち ば ゆ き
千葉 柚紀

医学部(保健学科)3年
基礎ゼミ・展開ゼミ継続サークル たなぼた

ボランティアを始めたきっかけを教えてください

基礎ゼミがきっかけでボランティアに携わるようになりました。同じようにボランティアに関わる個性的なみなさんや、いろいろな地域の方々と関わるのでこの活動にはまり、今もそのつながりを大切に活動を続けています。

活動の魅力はどんなところですか？

地域の方々、先生方、社会人のボランティア団体の方々など普段の生活ではなかなか出会えないみなさんと知り合い、人の輪を広げられるところが一番の魅力です！私は医学部保健学科で看護学を専攻しています。そのため、学外で様々な人を知ることができるこの活動が、将来の自分にとっても大きな意味を持つ時間となるのではないかと感じ日々活動しています。活動先の地域の方々はいつでも暖かく私たちを迎え入れてくださいます。ボランティア活動には、たくさんの方々の輪の中で、支援をする立場である私の心をも温め、何度でも参加させる魅力があるのです。

新入生に一言お願いします！

ご入学おめでとうございます！やってみたいこと、興味のあることに一歩踏み出し、みなさんにとって充実した大学生活になりますように。

先輩の
ここを
伝えたい！

たなぼたの活動理念は、人と人をつなぎ、初めてのボランティア活動参加の足がかりとなること・サークルメンバー、活動参加者、地域の方々含めたなぼたに関わるすべてのみなさんの居場所となる団体であることです。これを私たちは3Bと呼んでいるのですが、その詳細やそのほかたなぼたの由来など気になることは何でもメンバーに聞いてみてくださいね！私たちがたなぼたの活動は午前のみ午後のみ活動も多く、ほかの部活やサークル、バイトも頑張りたい人におすすめです。みんな大好きぼたちゃんと一緒にボランティア始めてみませんか？



※ぼたちゃんはぼたもちの妖精です。常にたなぼたと共にいます。ぼたぼた言います。



いいだ すみか
飯田 純夏

文学部3年

NPO法人 キッズドア (団体連絡先: <http://kidsdoor-fukko.net/>)

ボランティアを始めたきっかけを教えてください

私がキッズドアに入ろうと思ったきっかけは、なんとなくボランティアフェアに行って、そこで偶然知ったのがキッズドアでした。私も家があまり裕福ではないので、少しでも生徒たちの気持ちがあわせてあげられるかもしれないし、私の中でも幸せに生活できて大学にも入ることができたので、その分困っている人の手助けがしたいと思ったからです。

活動の魅力はどんなところですか？

キッズドアは、生徒と関わる時間がとても多いです。受験が終わるまでの1年弱を、生徒と同じ目標に向かって活動します。一番の魅力は、生徒のそばである一定期間過ごし、関係を築くことができることだと思います。その中で笑ったり悩んだりしながら、生徒たちが少し大人になって行く過程と一緒に過ごすことができます。また支えあいながらボランティア同士も仲良く信頼し合える活動です。生徒たちは私のことを覚えてくれて、名前を呼んでくれて、頼ってくれて、とても素直です。ボランティアというのは、自分が相手のためだけに行うのではなく、自分自身の中にもとても大切なものを残してくれれます。キッズドアは、してあげるだけではなく、お互いに成長できる活動を行なっていると思います。

新生入生に一言お願いします！

子どもが好きな人、将来教職を目指している人、受験生の手助けをしたい人、ボランティアに興味がある人、様々な動機を持っている人がいると思います。生徒とボランティア講師間、ボランティア講師同士、たくさん関係ができると思います。勉強で困っている生徒のために活動しています。楽しみながら多くの経験ができると思うのでぜひ、参加してみてください。

先輩の
ここを
伝えたい！

活動の様子



集団授業の様子



英語を楽しく学ぶ活動



生徒と一緒にイベント



おおば よしの
大庭 佳乃

文学部3年

さっと日本語クラブ (お問い合わせ:青葉区中央市民センター 022-223-2516)

ボランティアを始めたきっかけを教えてください

課外・ボランティア活動支援センターの学生スタッフである「SCRUM」という団体に所属している中で、「さっと日本語クラブ」に見学に行かせてもらったことです。その場で実際に子どもの勉強のサポートを体験させていただき、面白い、続けたいと思いました。

活動の魅力はどんなところですか？

子どもの成長を間近で感じることができることです。さっとにやってくる子どもたちは、ひらがなも知らない子から、親は外国人だけど日本で生まれ育ったという子まで、様々です。一人ひとりに関わり合いながら、一人ひとりの成長のサポートができるところにやりがいと楽しさを感じています。加えて、自分にとっては「当たり前」にしゃべっている日本語を教えるということで、日本語を見つめ直すきっかけとなったり、言葉・言葉以外での伝え方の工夫をしたりと、今まであまりなかった経験をしているなど感じています。また、英語が苦手だったことから海外への関心が低かった私にとって、さっとでのボランティア経験は、自分とは違った文化をもった人(つまり外国ルーツをもつ人)のこのことを知る・目を向けるきっかけとなりました。

新生入生に一言お願いします！

私は、大学に入って様々なボランティア活動を経験することで、自分とは違う立場にある人と関わり、その中からいろいろな新しい見方を学べたと思っています。見たことのない世界は、自分が「普通」と思っていることに隠されて気づかないだけで、案外身近にもあるものです。大学は自分のやりたいことのできる時間がたくさんあるので、今まで経験したことのないことに挑戦してみるのもいいと思います！

先輩の
ここを
伝えたい！

「さっと」には、日本語が全くできない子から日常会話はできて学校の勉強に追いつくのが難しい子など、様々なレベルの子どもたちが勉強に来ます。

私たち学生ボランティアは、「さっと」の先生が用意したそれぞれの子に適した教材を使って、主に1対1でそばについて一緒に勉強しています。勉強の後には一緒に遊ぶ時間もあり、「はないちもんめ」や「けん玉」など、遊びの中から日本について学ぶきっかけにもなっています。また、「さっと」のような場所は、子どもにとっては母国語で同年代の子と会話ができる数少ない場所にもなっています。そのため、単に日本語を教えるだけでなく、その子にとっての居場所となることも感じながら、活動をしています。



座談会 -ボランティアとキャリア形成-

ボランティアの経験は、学部での研究や将来の進路選択など、キャリアの形成にどう関わっているのでしょうか?ボランティア団体で活躍する先輩の本音を聞いてみました!



名古屋 円花
なごや まどか
文学研究科修士1年
東北大学
インクストーンズ

関 奏子
せきかなこ
教育学部教育心理学コース4年
東北大学地域
復興プロジェクトHARU

穴澤 ゆず
あなざわゆず
理学部生物学科2年
東北大学
インクストーンズ

渡邊 勇
わたなべゆう
工学部建築・環境工学科3年
東北大学陸前高田
応援サークルほかほか

近藤 智哉
こんどうもとや
工学部
電気情報理工学科3年
東北大学SCRUM

近藤(司会): それでは座談会を始めたいと思います。よろしくお願ひします
一 同: よろしくお願ひします!

ボランティアを始めたきっかけ

近藤: まず簡単に、みなさんが今されているボランティアの内容とそのボランティアを始めたきっかけを教えてください。

渡邊: 僕は、埼玉県出身で、震災当時は中学2年生でした。当時は震災のことは意識していなかったのですが、高校の時に人の死を意識する瞬間があり真面目に人の死について考えることがありました。その中、災害でたくさんの人の命が奪われたということが嫌で、少しでも亡くなる人を減らしたいなあと思いました。大学に入って震災で困っている人を減らしたいなとか、被災した場所の状況を知りたいってことでボランティアを始めました。岩手県の陸前高田市や熊本県の益城町というところで傾聴ボランティアをしたり、STORIAという団体で子ども支援をしたり、あしなが学生募金という団体で奨学金を借っている人たちが中心に次の遺児のために募金を集めるという活動の手伝いをしています。

穴澤: 私は北海道出身で6年生の時に悲惨な状況をテレビでみて何かしたいと思ったけど、何もできなくて、小学校で募金活動はしたのですが、自分で手を動かして実際に手伝ってない感じがして、すごい罪悪感を感じていました。東北大学進学をきっかけに「ちょっとでも罪滅ぼしになればな」という思いでボランティアを始めました。インクストーンズでは石巻市の仮設住宅や復興公営住宅でお茶会やイベントのお手伝いをしています。

関: 私は震災当時中3でした。テレビ・新聞で状況を見てはいたのですが人ごとに思っていました。春休みに姉が参加するので私も一緒に3日間ボランティアに参加しました。しかし、3日間だと何もできなかったという無力感が残りました。その後東北大に入った時に、やりきれなかつ

たことができるかもしれないと思ってボランティア団体を探してHARUに入りました。HARUは、山元部門と石巻部門の2拠点で活動しています。石巻部門では仮設住宅や公営住宅に定期的にの邪魔して、カフェや料理イベントなどの活動を、山元部門は山元町運動会や八口ウィンイベントのような地域ぐるみでのイベント運営が多いです。

名古屋: 私は先輩とか公政策大学院の方々に引き込まれる形でインクストーンズの代表をさせられてしまい…いや。きっかけはね(笑) 当時何も出来ないのがすごい嫌だったので、大学に入ったらボランティアとか絶対しようと思って仙台の大学を受けてボランティアを始めました。

近藤: きっかけもいろいろあるんですね。ありがとうございます。

ボランティアの良さ

近藤: みなさん色々な活動を今までされてきたと思いますが、ボランティアサークルのよさってなんだと思いますか?

穴澤: 私は入った当初は、ボランティアはただボランティアするだけで学部での勉強とはっきり分かれているものだと思っていたけど、実際はボランティアが自分の学部の勉強に、将来にかえて来るということを実感しました。あと、今の団体には一緒に活動する友人が色々な学部の人がいるし、将来についても色々考えていて、すごく刺激になります。

渡邊: めっちゃわかる!!深い話できる人が学部や高校の友達では少ないけど、このコミュニティにはたくさんいるので、そこで色々考えたり気づいたり、本当にいい経験になっていると思います。

関: そこは本当にボランティアサークルのいいところだと思いますね。私も先輩にボランティアのいろはだけではなくて、教育学部の話ですとか色々な話を聞くことができました。その中で本当に自分自身も頑張らなければと思うことができました!

近藤: なるほど。確かにボランティアサークルは色々な学部の人がいるし、学部では話さないようなことにも興味が向いたりしますね!

学部とボランティア

近藤: 学部での勉強とボランティアサークルとの繋がりに関してはどうでしょうか。

穴澤: 理系だとあまりボランティアをしようって人がいないような気がします…研究とか就職のことを考えていて。起業したりNPO入ろうって発想は理学部にはないですね。

近藤: そうなんだよね~(苦笑) でもやっぱり理系でもボランティアすることって大事だと思う?

穴澤: 思いますね。でも、理学部は研究者になるんだったら、あまり社会問題とか知らなくてもいいんですよ。だから、そういう意味で本当にボランティアと関係がないです(笑)工学部は割とボランティアと繋がる場所もあるんじゃないですか?

渡邊: 僕は土木が専門だけど、身近な人が暮らしやすい都市計画を考えているはずなのに、そこにいる「人」を意識しないことが多いんだよね。自分が実際に陸前高田に行く中で住民さんから色々な現実というか、住民さん視点のことを聞くようになって、「人」のことを第1に考えられる工学者になればなって思いました!

近藤: 確かに。身近な人の辛さとかも理解できる研究者ってやっぱりかっこいいですよ。一方で、教育学部はボランティアに近いイメージがあるのですがどうなんですか。

関: 教育学部は目に見えて対象が人ってわかっていないじゃないですか。生まれてから亡くなるま



関 :での教育っていうのが絡んでいるので、その中で人の役に立ちたいと思っている人が多いんじゃないかという気がします。

近 藤 :経験値を積むという意味で、ボランティアをしている人も多いうことでいいですか？

関 :そうですね。実際に私もそのうちの一人です。将来は臨床心理士になりたいと思っています。ボランティアで傾聴活動をする中でその思いはどんどん強くなってきて、やっぱりボランティアでの経験は活きますと思います！

名古屋 :同じ文系でも私は文学部なんですが、宗教学を専攻しています。ちなみに卒論をボランティアの活動先である石巻雄勝町波板地区について書きました。こんな感じで…

一 同:おおお(分厚い…)

近 藤 :どんなことについてまとめたのですか？

名古屋 :震災後のまちづくりと宗教的な思いとか行事の関係性、そういうのが震災後に町に人が戻ってくるかなどに関わっているんですよ。そういった宗教学と、実際にボランティア先で経験したことを絡めて書きました。

将来とボランティア

近 藤 :先ほど、関さんは臨床心理士になりたいとおっしゃっていましたが、名古屋さんはどういった将来を考えていますか？

名古屋 :私は院に進むから将来はまだわからないんだけど、今は社会教育に関心がある。

近 藤 :宗教学とは変わったんですね！

名古屋 :元々は博物館の学芸員になろうと思っていたんだけどね。でもやっぱり根底には震災への関心っていうのがあるなって感じるかな。私にとっては震災の興味が大きくなって思うね。

近 藤 :そうなんですね。関さんも名古屋さんもボランティアをする中で、学部での目標もみつかったんですね。

渡 邊 :僕も、ボランティアをすることで、学部での目標が見つかったと思う！

近 藤 :え。そうなんだ！？将来はどうしたいの？

渡 邊 :僕は防災に関わる何かができればなあって思っています。例えば…ん～防潮堤の問題とかってすごい複雑なんですよ。高さ・構造についての意見が人によって変わるから…行政と住民の間でもそうだけど…でも、みんなそこに住んでいる人がいい暮らしをできるようにっていうことを願っているんです。僕は、ボランティアをすることで研究者の視点も住民さんの視点も持つことができたから、その2つをうまくつなぐことができたなって思ってます。

近 藤 :僕は逆に、学部の勉強に疑問を持ち始めましたね。AIの進歩とかって本当に周りの人間を幸せにできるのかなって思い始めて。学部に入った時とは、違う思いを学部には抱いているかも。今は、ヒューマンインターフェースっていう情報工学の中でも、情報工学と人との関わり方も含めて考える学問をしたいなと思っています！

近 藤 :穴澤さんは理学部で、ボランティアは関係ないって言っていたけど、将来はなにか研究したいことがあるの？

穴 澤 :元々行きたい研究室があったので、東北大学にきました。そこでは線虫を使って人の遺伝性の病気のDNA上の場所を探るっていう研究をしているんですよ。今、そこでバイトしてます。

一 同:おおー。すごい…

近 藤 :将来も人それぞれですね…今日は、集まっていたいただきありがとうございました！！

一 同:ありがとうございました！

新入生にひとこと

近 藤 :最後に新入生に向けて、メッセージをぜひお願いします！

名古屋 :難しく考えないでほしいね。ボランティアを始めるときも、続けているときも。最初は、何か人のためにしたいと思って入っても、人の考え方って変わるから！変わったとしても悩みすぎなくていいと思う！あと、最初の一步踏み出せない人に対して、そんなに構えなくていいよと言いたし、始めた人にも途中で涙したりすることもあってもいいよって言いたい！気楽にやるのがいいと思います。

関 :私は、本当にハードルが高くないと伝えたいです。実際仲間とワイワイできる面もあれば真剣な話し合いもできる面もあり、勉強の息抜き、社会とのつながり、ボランティアでの自己実現…とか。本当に大学生のうちにボランティアを経験するってことが大事だと思います。

渡 邊 :お二人の言う通りだと思います！興味があるなら一回でいいから参加してほしいです！

穴 澤 :私は、ボランティアサークルは真面目に思えるかもしれないけど、普通のサークルと変わらずにとにかく楽しいってことを伝えたいです！



参加していただいた皆さんの団体はこちらから



東北大学インクストーンズ

[f](#) @tohoku.vol.inkstones [t](#) @ink_stones

東北大学復興応援プロジェクトHARU

[f](#) @haru.tohoku [t](#) @haru_tohoku

東北大学陸前高田復興応援サークルぽかぽか

[f](#) @tohoku.poca2 [t](#) @Poca_2

東北大学SCRUM

[f](#) @voltohokuuniv [t](#) @TOHOKU_VOL



学生

ボランティア団体の紹介

9団体

東北大学生による学生ボランティア団体を紹介します。活動に参加してみたい団体や興味をもった団体があれば、4月のボランティアフェア等で詳しく話を聞いてみましょう！

1 AsOne

代表：三上 菜々子(医学部保健学科看護学専攻3年)

As Oneは“海外支援”と“東北支援”の両方に取り組むことのできるボランティアサークルです！海外支援では主に国際NGO団体Habitat for Humanityが提供する海外建築ボランティアに参加して実際に途上国に行って家を建てています。東北支援では女川町・石巻市を中心にコミュニティ支援に取り組んでいます。また、宮城・福島を中心にスタツアを実施して被災地の現状を学んでいます。興味のある方はお気軽にご連絡ください！



E-mail: tohoku.asone2013@gmail.com
Twitter: @tohoku_asone

2 東北大学 インクストーンズ

代表：江藤 ゆうの(理学部化学科2年)

インクストーンズは、宮城県石巻市を中心に活動する団体です。一般学生を交えたボランティアツアーやメンバーのみでの活動などを月に一度のペースで行なっています。足湯や手芸などを通じた、仮設住宅や復興公営住宅でのコミュニティ形成支援と限界集落での地域おこしのお手伝いの二つの活動を主に運営しています。個性豊かなメンバーが、地域に寄り添った活動をしています。誰かに笑顔を届けたいあなた、気軽にご連絡ください！



E-mail: tohoku.inkstones@gmail.com HP: <https://tohokuinkstones.tumblr.com>
Twitter: @ink_stones Facebook: @tohoku.vol.inkstones

3 こども☆ひかりプロジェクト

代表：佐藤 萌(生命科学研究所 修士1年)

こども☆ひかりプロジェクトは、東北を中心としたミュージアム(博物館等)で、全国から集まった学芸員の方々との協力し、こども向けのワークショップを開催しています。活動は月1回程度です。また、フリーペーパー「ミュージアムキッズ」の執筆も行っています。こどもが楽しく学び、笑顔になる素敵な瞬間に立ち会えますよ！



E-mail: kodomo.hikari1206@gmail.com TEL:090-9119-2005 HP: <https://www.kodomohikari.com/>
Facebook: <https://ja-jp.facebook.com/kodomohikariyouth/>

4 東北大学ボランティアサークル たなぼた

代表：高橋 遥(文学部2年)

復興支援を中心に活動しています。活動場所は、仙台市あすと長町・大和町、石巻市蛇田地区の復興公営住宅がメイン。活動内容は、足湯・折り紙や鍋つかみ作りなどの手芸、お祭りの手伝いなど！たなぼたは、企画作りを行うコアメンバーと企画参加を中心に行うフレンドメンバーがおり、個人個人に合わせて活動できるので、ボランティアのきっかけ作りにピッタリです。Twitter等のSNSでも情報をゆーっと提供しています。ぜひご覧ください♪



E-mail: tanabotatohoku6@gmail.com

Twitter: @tanabota_tohoku Facebook: https://www.facebook.com/pg/tanabota.tohoku/about/?ref=page_internal LINE: <https://line.me/R/ti/p/%40ucl7386i>

5 HARU

代表：小林 奎太(法学部3年)

HARUは、宮城県石巻市と山元町が活動拠点です。仮設住宅や復興公営住宅にてお茶会、お料理会などを開催して住民の方とお話したり、お祭りのお手伝いをしたりするほか、子どもから大人までみんなが楽しめる運動会などの交流イベントの企画も行っています。メンバーはこうした活動の中で見つけた「ニーズ」を大切に、学業や他サークルと両立できる個々の範囲でボランティアに取り組んでいます。HPやブログなど、ぜひご覧ください！



E-mail: koho@haru-tohoku.org HP: <http://www.harutohoku.org/>

Twitter: @haru_tohoku Facebook: <https://www.facebook.com/haru.tohoku> Blog: <http://tohogakuguseifukko.blogspot.jp/>

6 福興youth

代表：平野 杜萌(工学部2年)

主に福島県いわき市で活動しています。メンバーのみでの活動だけでなく、「メンバーに限らずより多くの人に足を運んでもらいたい。」という思いから、様々な立場の方から福島県の「いま」のお話を現地の視察を交えながら伺うスタディツアーと、お茶会や足湯、手芸を介した傾聴を軸とするこころのケアや、地域の伝統行事の手伝いをするボランティアツアーの2種類のツアーの企画運営もしています。興味のある方、お待ちしております！



E-mail: fukkoyouth.tohoku.univ@gmail.com TEL:022-795-4948 HP: <https://fukko-youth.tumblr.com/>

Twitter: @fukko_youth Facebook: @vol.tohoku.fukkoyouth

7 東北大学陸前高田応援サークル ぽかぽか

代表：富岡 奈央(文学部2年)

岩手県陸前高田市で活動を行っています。一般の学生を交えたボランティアツアーを月に1回程度で実施しています。仮設住宅・災害公営住宅での足湯・手芸カフェや料理作りの活動を主にしています。また、地域の要望に応じて伝統行事の「動く七夕」「虎舞」のお手伝いなども行っています。誰でもウェルカムな楽しい雰囲気です。活動していますので、ボランティアをしてみたい人や被災地を見たい人などぜひ参加してみてください！



E-mail: tohoku.poca2@gmail.com

Twitter: @poca_2 Facebook: <https://ja-jp.facebook.com/tohoku.poca2/> Blog: <http://ameblo.jp/poca-2/>

8 ReRoots

ReRootsは東日本大震災で被災した仙台市若林区で復興支援活動を行う団体です。若林区は古くから農業が盛んで、農村コミュニティが発展してきました。震災を機に失われつつある地域の文化や人のつながりを守り被災農家を応援するため、現在は地域のイベント企画や稲わらを使ったアート制作、農家さんや自分たちの手で作った野菜の販売といった活動を行っています。私たちと共に被災地の復興を考えてみませんか？

代表：高田 裕希(農学部2年)



E-mail: reroots311@yahoo.co.jp HP: <http://reroots.nomaki.jp>
Twitter: @ReRoots311/ReRoots_newface Facebook: <https://www.facebook.com/ReRoots311> Blog: <http://reroots.blog.shinobi.jp/>

9 高校生支援団体 bridge

私たちは「高校生の“架け橋”に」という理念のもと、高校生の思いを実現する手助けや、学びの機会づくりをしています。進路支援のための座談会や震災学習を目的とした交流会を中心に活動しています。地域による学びの機会の不均衡を改善するべく、大学生との交流によって得られる、地方高校生に不足している“学び”を提供することを目指しています。多彩なメンバーと共に活動してみませんか？ご参加お待ちしております！

代表：石川 祐也(理学部3年)



E-mail: bridge.univ.tohoku@gmail.com HP: <http://bridgeunivtohoku.wixsite.com/homepage>
Twitter: @bridge_tohoku_r

10 東北大学献血推進サークル

代表：石田 美空(医学部2年)

東北大学献血推進サークルはその名の通り、献血を推進することを目的として活動をしている団体です。メンバーは全国様々なところにある全国学生献血推進ボランティアの一員として活動できます。主な活動はサマーキャンペーンやクリスマスキャンペーンの運営補助や呼びかけです。また、今年度からは仙台市内の献血ルームでの提起的な呼びかけを行う予定です。献血に興味がある方、ぜひ一緒に活動しましょう！待っています！！



E-mail: mygsihu@gmail.com (宮城県青年赤十字奉仕団)
Twitter: @t_Kenketsu



どの団体に参加するか迷ってる…
興味を持った団体の話をもっと聞いてみたい！
そんな時は、

『ボランティアフェア』

ここで紹介されている各団体が一堂に集まります。
ボランティアフェアに参加して、詳しくお話を聞いてみましょう！

日程は36Pを参照

学外

13団体

ボランティア団体の紹介

東北大学生が参加している学外ボランティア団体を紹介します。活動に参加してみたい団体や興味をもった団体があれば、4月のボランティアフェア等で詳しく話を聞いてみましょう！

1 あしなが学生募金事務局
宮城ブロック

代表: 松崎 里穂(東北福祉大学2年)

私たちは、遺児の高等教育支援のために、毎年春と秋に街頭募金を行なっています。いただいたご寄付は、あしなが育英会に寄付し、日本国内やアフリカの遺児のための奨学金として使われます。勉強したいを支えたい。そんな思いで、一人でも多くの遺児が安心して進学できるよう、活動をしています！ご連絡お待ちしております！



E-mail:maruanomiyagi@gmail.com HP:https://www.ashinaga-gakuseibokin.org/
Facebook: "あしなが学生募金 宮城"

2 アスイク

代表: 大橋 雄介

生活保護などを受給する、困窮世帯の小学生～高校生年代を対象に、放課後の時間を利用し無料の学習支援を行っております。勉強以外の「まなび」の機会の一つとして課外プログラム(年に数回)も開催しています。在籍するボランティアの年齢や所属は様々なので、多様な視点から子ども達の支援を行うことができます。

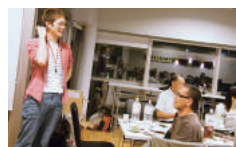


Email:info@asuiku.org TEL:022-781-5576 HP: http://asuiku.org/
Twitter:@asuiku2011 Facebook:@asuiku0328

3 balloons+

代表: 杉浦 弘樹(東北大学薬学研究科D1)

balloons+は、医薬品による健康被害を負われた被害者の方々に対して、生活支援を行う学生ボランティアサークルです。現在は、皮膚炎患者サークルの運営支援を中心に取り組んでいます。大学・学部・学年の壁を超えて楽しく活動しています！専門的な知識は必要ありません、あなたのご参加をお待ちしています！



E-mail:balloons.toss@gmail.com TEL:080-3417-6479
Twitter:@balloons_toss

4 石巻復興きずな新聞舎

代表: 岩元 暁子

石巻市内の仮設住宅・復興住宅向けに無料情報紙「石巻復興きずな新聞」を発行し、ボランティアの手で配布する活動を行なっています。



住民さんのお話を伺いながら新聞をお届けする「配布ボランティア」、取材して記事を書く「記者ボランティア」などを随時募集中。定期的・継続的に関わってくださる方には、交通費補助あり。



E-mail:kasetsukizuna@gmail.com TEL: 090-6686-8317 HP: http://www.kizuna-shinbun.org/
Twitter: @kizuna_shinbun Facebook:kasetsukizuna

5 NPO法人 キッズドア

理事長: 渡辺 由美子

私達は、家庭の事情で塾に行けない中高生に勉強を教えています。主な活動は、毎週日曜日の中三生向け集団・個別指導「タダゼミ」と、高校生向け個別指導「ガチゼミ」です。その他にも自習室「ネクスタ」等様々な学習支援を行っております。学習以外でも、クリスマスパーティ・餃子パーティなど、生徒との交流の場があります。現在活動しているボランティアの多くは大学生で、加入を検討している皆さんの活躍の場となると思います。



Email:tohoku@kidsdoor.net TEL:022-354-1157 HP: http://kidsdoor-fukko.net/
Twitter:@kidsdoor_Tohoku

6 NPO法人アイカス国際都市仙台を支える市民の会 「さっと日本語クラブ」

代表: 河田 文子

アイカスはボランティア日本語講座や講師養成、日本文化を紹介する国際交流の団体です。その中の「さっと日本語クラブ」は、外国に由来を持つ小・中学生のための日本語講座です。来日したばかりの子や、言葉の問題で学校の勉強が難しい子に日本語を教えます。子ども達の生活がより充実するようにスタッフ一同奮闘しています。



E-mail:k_fumimi@icloud.com TEL:090-6253-9684

7 特定非営利活動法人 STORIA

代表理事: 佐々木 綾子

STORIAは、貧困の世代間連鎖を断ち切ることを目指し、経済的困難を抱えた小学生を対象に「困難を乗り越え生き抜く力」を育む子どもの居場所づくりを行っています。地域や企業と協働しながら、食育・学習支援・体験学習を実施し、子どもたちの「自己肯定感」と「考える力・伝える力・協働する力」を大切に育てています。



E-mail:info@storia.or.jp TEL:080-3335-3828

Facebook : <https://www.facebook.com/storia.japan/?ref=bookmarks>

8 仙台自主夜間中学

代表: 中澤 八榮

仙台自主夜間中学では、病気や家庭の事情で小・中学校に満足に通えなかった方や不登校・ひきこもりなどで学校に通えなかった方などが学んでいます。2014年11月に開校し、現在は水曜日の昼・夜、金曜日の夜に仙台市内で教室を開き、10代～90代まで約40名が楽しく学んでいます。学生ボランティアも大募集中です。



Email:sendai.yakan@gmail.com TEL:090-7562-3227 (代表中澤)

Blog:blog.canpan.info/yakan/

9 チャンスフォーチルドレン

代表: 今井 悠介

東北を中心に、経済的な困難を抱える全国の子どもたちに、塾や習い事で利用できるクーポンを提供しています。大学生ボランティアは、勉強や日常生活について等様々な話をする電話面談や、交流イベント等を通じて、夢に向かって頑張る子どもたちのお兄さん・お姉さんとして伴走する大切な存在です。ぜひ力を貸してください。



E-mail:brosis@cfc.or.jp TEL:022-265-3461 HP:<https://cfc.or.jp/>

Twitter:@bh_cfc Facebook:<https://www.facebook.com/chanceforchildren/>

10 TEDIC

代表: 門馬 優

石巻市で子ども・若者支援をしている団体です。貧困、いじめ、不登校などの背景を持った子どもへの学習・居場所支援をしています。一緒に勉強をしたり、ごはんを食べたり、行事を祝ったり。“子どもにとってどうなのか?”を問い続けながら活動に取り組んでいます。私たちと一緒に子どもとの素敵な思い出をつくりませんか?



E-mail:office@npo-tedic.net TEL: 0225-25-5286 HP: <https://www.tedic.jp/>

11 一般社団法人 ピースボートセンターいしのまき

代表理事: 山元 崇央

私たちは、7日間からの漁村留学「イマ、ココプロジェクト。」を軸に石巻市で活動をしています。1週間漁村に住む漁師さんのお宅にホームステイ(または漁村の地域施設に宿泊)しながら養殖漁業のお手伝いをするこのプロジェクトでは、「支援する側⇄される側」という垣根を乗り越えた、個人と個人の深い繋がりを育むことを目的としています。雄大な自然の中で人々から溢れ出る魅力に触れながら、浜の豊かな暮らし体験してみませんか?



Email:peaceboat@pbi.or.jp TEL:0225-25-5602 HP: <http://pbi.or.jp/>

Facebook:<https://www.facebook.com/ima.coco.project/>

12 一般社団法人 復興応援団

代表理事: 佐野 哲史

南三陸町と多賀城市で、地元の人を中心とする復興に向けて活動しています。その地を長期的に支えるファンやコミュニティを創出し、復興へ大きなうねりを起こそうとしています。南三陸では地元の担い手を応援するツーリズムプロジェクト。多賀城では毎月広報紙を作成・配布し、コミュニティ作りのお手伝いをしています。



E-mail: dangakusei@gmail.com HP: <http://www.fukkou-ouendan.com/>
Twitter: @staff_dan Facebook: <https://www.facebook.com/fukkououendan/>

13 一般社団法人 ワカツク

代表理事: 渡辺 一馬

学生の想いを復興の現場や課題解決に取り組む企業・団体に繋ぎ、サポートしています。活動の現場は、地元企業や学生団体とさまざま。



地域の魅力的な企業や社会人を取材・発信する「いぐるる仙台」や、学生団体の活動や魅力を発信する「東北1000プロジェクト」など、独自のプロジェクトもありますので、ぜひご相談ください!



E-mail: musubaru@wakatsuku.jp TEL: 022-721-6180 HP: <http://www.wakatsuku.jp/>
Twitter: waka2ku

ボランティアツアー・スタディツアーのご案内

センター主催・共催またはボランティア登録団体の実施するツアーの一覧です。高校まででは、なかなか行く機会のない被災地に行ってみませんか?これからの大学生活において、貴重な体験になること間違いなしです!



ツアーの詳細、申込については、公式サイトをご覧ください!
URL: <https://scrum-tohoku-univ.jimbo.com>

